

かのりがわりゅういき

鹿乗川流域遺跡群範囲確認調査

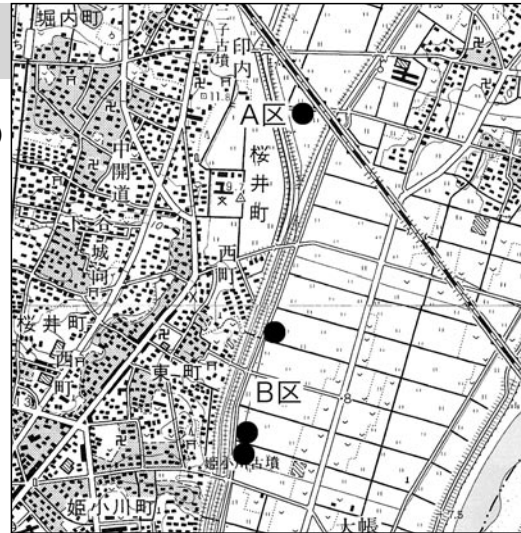
所在地 安城市桜井町・東町・姫小川町
(北緯34度54分54秒 東経137度5分49秒周辺)

調査理由 中小河川改良事業(鹿乗川)

調査期間 平成17年2月

調査面積 230㎡

担当者 宮腰健司・松田 訓



調査地点(1/2.5万「安城・西尾」)

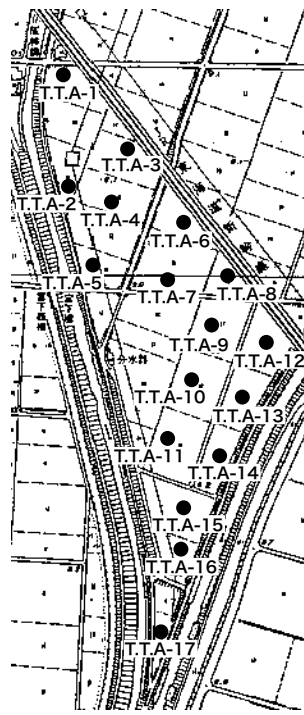
調査の経過 発掘調査は、中小河川改良事業(鹿乗川) 予定地内における試掘調査で、県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年2月に実施した。調査面積は、230㎡である。

立地と環境 鹿乗川流域遺跡群は鹿乗川に沿って展開する遺跡群で、平行して流れる矢作川が形成した自然堤防上や、西に広がる碧海台地の縁部に立地する。

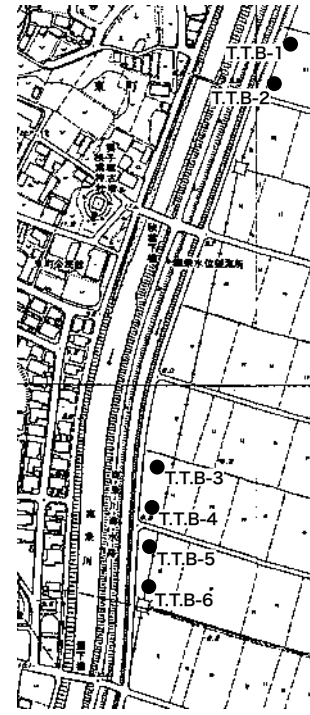
調査の概要 今回の範囲確認調査は、大きく二ヶ所に分かれて行われた。A区は西鹿乗川と鹿乗川が合流する地点の北側で宮下遺跡の東、B区は鹿乗川左岸の姫小川橋の北側にあたる。

A区では、17地点に2×5mの試掘トレンチを設定した。A区の基本層序は、上位より耕作土-灰白色シルト-灰黄色(白色)シルト-褐灰色シルト-灰白色シルト・砂で、灰黄色(白色)シルト-褐灰色シルトに古墳時代から古代の遺物を包含する。T.T.A-7~9、11、14~17では土坑及び溝と考えられる遺構が確認され、その中でもT.T.A-7・8では古墳時代の多くの遺物が出土している。またその間のT.T.A-10・13では遺物は見られなかったが、13では畦畔と思われるセクションを確認している。さらに北側のT.T.A-1~6・12では遺構は検出されなかったが、古墳時代~平安時代、江戸時代の遺物が出土している。

B区では、6地点に2×5mの試掘トレンチを設定した。B区の基本層序は、上位より耕作土-灰オリーブ色シルト-灰白色(黄色)シルト、灰色(灰黄色)粘質土-灰白色シルト・砂で、灰白色(黄色)シルト、灰色(灰黄色)粘質土に古墳時代の遺物を包含する。T.T.B-2・6では土坑または溝の遺構を確認した。またT.T.B-1では南に落ちる自然流路状の堆積が確認されている。(宮腰健司)



A区(1:6000)



B区(1:6000)